

(四国地方整備局からのメッセージ)

◆◆◆四国地方整備局トピック 2016. 1. 8◆◆◆

\*\*\*\*\*

新年、明けましておめでとうございます。年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

昨年を振り返りますと、2月、3月には、一般国道192号徳島南環状道路の部分開通、一般国道55号大山道路の開通、一般国道56号宇和島道路の全線開通、高知東部自動車道高知南国道路（高知南IC～なんこく南IC）の開通、一般国道11号大内白鳥バイパスの部分開通と、道路の開通ラッシュでした。

また、5月から7月にかけては、四万十川不破堤防事業の竣工式、肱川上老松地区整備事業竣工式、高知海岸新居工区完成セレモニーが開催されるなど、河川・海岸関係の完成式典が相次ぎました。一方、5月の高松サンポート合同庁舎2期（南館）着工記念式典、9月の東予港中央地区複合一貫輸送ターミナル整備事業起工式、11月の吉野川加茂第二堤防起工式と、新たな施設整備の着手を記念する行事も行われました。さらには、一昨年の浸水被害を受けて、那賀川加茂谷地区と仁淀川の宇治川並びに日下川の3地区で床上浸水対策特別緊急事業が新規事業化されるとともに、四国8の字ネットワークについては、四国横断自動車道の宿毛～内海間並びに阿南安芸自動車道の奈半利～安芸間で計画段階評価を進めるための調査に着手することになりました。

このように、昨年は多くの事業において、完成や事業着手など大きな進展を見ることができました。これもひとえに、皆様方のご支援、ご協力のお蔭であり、感謝申し上げます。

自然災害に関しては、昨年は比較的穏やかな年であったかと思いますが、これは一昨年と比較してということであり、那賀川で2年連続となる戦後最大級の出水による浸水被害が発生したのをはじめ、9月の集中豪雨では東洋町の国道55号で土砂流出により36時間にわたって通行止めを余儀なくされるという災害が発生しました。これらの災害対応に加え、9月に鬼怒川の堤防が破堤し、常総市等で甚大な浸水被害が発生した際には、四国地整からも11名のTEC-FORCE隊員と排水ポンプ車などの災害対策車両を派遣し、被災地の早期復旧のために貢献するなど、適切な災害対応並びにTEC-FORCE活動を行うことができました。

昨年は、流行語大賞にこそ選定されませんでした。が、「ストック効果」という言葉が注目を浴びた年でもありました。高速道路の延伸に伴い南予地域の養殖マダイのシェアが大きく伸びて約6割を占めるようになったことや、肱川では浸水リスクの低減によって企業や商業施設の立地が促進され約1400人の新たな雇用が創出されたこと、高知港三里地区では耐震岸壁や防波堤の整備によって貨物船のみならず大型の外航クルーズ船の寄港が増加傾向にあることなど、これまで進めてきた社会資本整備のストック効果として、地域経済の活性化に寄与している好事例としてあげられます。今後とも、インフラ整備の本来の目的であるストック効果の最大化を図ることを目指して、整備局としての取り組みを進めていく必要があります。そのことは、昨年9月に閣議決定された2020年度までのインフラ整備の基本方針となる第4次社会資本整備重点計画においても基本理念として打ち出されています。

さて、今年は何の様な年になるのでしょうか。干支でいえば「丙申（ひのえさる）」です。「丙」は、形が明らかになってくる頃を表し、また「申」は、果実が成熟していつて固まっていく状態を表しているそうです。いずれも、完成ではありませんが形が見えてくる状況を表しています。これまで積み重ねてきたもの、努力してきたものが実り始める年と言えそうです。四国の皆様が頑張ってきたこと、また整備局として積み重ねてきたことが形になり、さらなる完成そして元気な四国の実現に向けて大きなステップの年となることを願っています。

最後になりましたが、本年が皆様そしてご家族にとりまして健康で充実した年となりますことを祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

四国地方整備局長  
石橋 良啓

\*\*\*\*\*

■四国地方整備局 緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)  
国土交通大臣表彰について

【企画部 防災課】

緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)は、平成20年4月の発足以来、東日本大震災をはじめ58の災害に対して、のべ約4万人以上の隊員が被災地に赴き、被災状況の迅速な把握、被害の拡大や二次災害の防止、被災地の早期復旧等に対する技術的な支援を実施しています。

これまでの様々な災害現場において、初動・応急活動に参加した隊員の功績を称え、その活動の重要性や果たした役割等について理解・浸透を図ることを目的に、「第1回TEC-FORCE全国大会」が平成27年12月2日(水)に中央合同庁舎2号館講堂で開催されました。

同大会では、四国地方整備局をはじめ他の整備局等から長期に渡って派遣した「平成26年8月広島土砂災害におけるTEC-FORCE活動」が国土交通大臣表彰となり、石井国土交通大臣から表彰を受けました(表彰対象:中国地整、北陸地整、中部地整、近畿地整、四国地整、九州地整、国総研、国土地理院)。

四国地方整備局からは5名の隊員が参加し、広島土砂災害隊長(第2陣)を代表して、総括技術情報管理官(四国技術事務所)が表彰状の授与を受けました。

\*\*\*\*\*

■世界初!鹿野川ダム洪水吐トンネルが貫通

【山鳥坂ダム工事事務所】

鹿野川ダム改造事業のメインとなる世界初の巨大洪水吐トンネル(全長457m、内径11.5m)が、平成24年秋の掘削開始から約3年の歳月を経て貫通することとなり、山鳥坂ダム工事事務所では、一度しかない記念すべき貫通の瞬間を一般公開しました。

参加募集はHP等で行い、周辺住民をはじめ遠くは神奈川県から総勢52名の見学者の皆様と13名のメディア関係者、事務所職員と施工者の立ち会いの中、無事貫通に至りました。

多くの参加者から「貫通の瞬間に立ち会えて良かった」というお言葉をいただきました。また貫通石の配布は大変喜んでいただくなど、大好評な見学会となりました。

\*\*\*\*\*

■事務所だより

【中村河川国道事務所】

・相ノ沢川総合内水対策の取り組み

平成26年6月に発生した相ノ沢川及び楠島川流域(高知県四万十市)の内水氾濫により、国道56号の冠水による通行止めや家屋の床上浸水等多くの被害が発生したことを受け、ハード・ソフトの両面からなる総合的な内水対策計画の策定と推進を目的とした「相ノ沢川総合内水対策協議会」を6月15日、国・県・市により設立しました。

協議会では、具体的な実施施策や国・県・市の役割分担等を検討し、総合内水対策計画の策定を目指します。

・四万十市周辺にナベヅルが多数飛来

古くから四万十市周辺はツル類の飛来・越冬地となっており、当事務所も四万十川自然再生事業「ツルの里づくり」においてツル類の越冬環境整備を地域と協働して進めています。

今年度は10月28日にナベヅルが確認されて以降確認数が増加し、11月11日

には239羽となりました。これまでの最高は平成20年度の72羽でしたので約3倍と非常に多くマスコミ報道されるなど注目を集めています。

・「放置車両の移動訓練」を実施しました

平成26年11月21日に災害対策基本法の一部を改正する法律（以下「改正法」とします。）が施行され、大規模災害時において直ちに道路啓開を進め、緊急車両の通行ルートを迅速に確保するため、道路管理者自ら放置車両の移動が可能となりました。この改正を踏まえて、当事務所では昨年11月26日、警察や消防などと合同で、大雪時等に走行不能となった車両が路上に放置され、通行障害となった場合の道路交通の確保を目的とした「放置車両の移動訓練」を実施しました。

訓練では、改正法に基づく道路区間の指定から放置車両の移動までの啓開等の手順について、「高知県道路啓開計画作成検討協議会」において策定中の「高知県道路啓開手順書（素案）」に沿って関係機関が連携しながら確認しました。

今後も、災害時に緊急輸送道路を早期に確保するため、中村警察署・幡多中央消防組合などの関係機関と協働して、このような訓練を引き続き実施していきます。

・道路整備に関する意見交換

四万十市の道路整備を進める女性の会「幡多美人の会」31名をお迎えして、道路利用者の目線で事業中の片坂バイパス・窪川佐賀道路を実際に見ていただき、意見交換などを行いました。

今後事業化を目指している四国横断自動車道（佐賀～四万十）をはじめ、道路事業を進めるには相応の期間が必要であり地元住民のご理解が不可欠であることから、今後もこのような機会を通じ道路利用者や地元の方々への情報発信に取り組んでまいります。

\*\*\*\*\*  
四国地方整備局HP

<http://www.skr.mlit.go.jp/>

\*\*\*\*\*  
「いきいき四国通信」に関するご意見等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

<mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp>  
《平成27年2月からメールアドレスが変わりました》

\*\*\*\*\* 「いきいき四国通信」事務局 \*\*\*\*\*  
「いきいき四国通信」の配信中止・配信先変更のご希望がありましたら、事務局までご連絡頂きますようお願いいたします。

国土交通省 四国地方整備局 企画部  
【担当】石井（内3126）、仙波（内3176）  
〒760-8554 高松市サンポート3番33号  
電話（087）851-8061 / FAX（087）811-8408  
<mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp>  
《平成27年2月からメールアドレスが変わりました》